



未来を担うハンドボーラーのための

「ドーピング」ってなんだろう？

貝沼 圭吾

かいぬま・けいご、1979年生まれ。東海高（愛知）でハンドボールに出会い、大学時代からは審判にも携わる。現在は国立病院機構三重病院で小児科医として、運動誘発せん息などの研究診療に従事。同時に現役レフェリー、三重県審判長としても活動し、日本協会では審判部、アンチドーピング特別委員会委員、医事委員としてハンドボールと深く関わる毎日を送っている。

「ドーピング」という言葉を聞いたことはあるだろうか。スポーツで好成績をあげるために禁止されている薬物などを使うことだ。「自分には関係ないよ」と読者のみなさんは思うかもしれないが、じつはそうでもないんだ。この連載をとおして、一度「ドーピング」について学んでみよう。

Vol.10
大会期間中に
便利なHP

第68回国民体育大会（以下、国体）「スポーツ祭東京2013」の開幕が近づいてきましたね。各都道府県での結団式などでも、アンチドーピングへの講習などが開催されていると思います。参加された方は、しっかり聞いていただけたでしょうか？
今回は、国体直前ということ

質問、疑問をお寄せください！

当連載に関係する質問や疑問があれば、遠慮なくお寄せください。特別委員会のみなさんも、ハンドボーラーがアンチドーピングのどんな点を知りたいのか、とても興味を持っています。お名前（ペンネームも可）、年齢（学年）、質問事項をご記入の上、160ページ下欄の宛先より「『ドーピング』ってなんだろう？」係までメール、ハガキ、FAXでお送りください。

で、大会直前期、大会期間中に薬が必要になってきた場合に、安全に使用するための手段をいくつかご紹介したいと思います。これまでの連載でも書いたことも改めて出てきますが、緊急手段として使用できるものをたくさん知っておいてください。

1 直接問い合わせる方法

●日本ハンドボール協会アンチドーピングホットライン

この連載でも毎回電話番号を掲載していますが、直接私に連絡が入る携帯電話を持っています。仕事柄電話にできることができない場合もあります。電話で質問いただくと、商品名を正確に聞き取ることができ、またこちらからも「エフエドリン」という言葉が入っていませんか？などと質問することができ、便利です。私どもは考えています。薬が必要な場合というのは、今すぐに飲みたい時がほとんどだと思いますので、深夜以外であれば、かけて

いただいてもかまいません。どんな質問でも結構ですので、積極的に使用していただければと思います。実際にこれまでも20件ほど問い合わせをいただいております。役に立ったとお言葉を頂戴しています。

このホットラインがつかない場合、日本ハンドボール協会に問い合わせてください。その際は、私を含め医事委員メンバーを探して薬の使用の是非につき回答させていただきます。

●東京国体専用ホットライン

東京都薬剤師会によるドーピング防止のためのホットラインです。

平成25年9月25日から平成25年10月8日までの期間において、24時間問い合わせを受け付けてもらえることになっています。問い合わせ方法はEメールです。

問い合わせの際には、氏名、年齢、性別、電話番号、競技名、自分の立場（選手、コーチ、トレーナーなど）、問い合わせ内容（医

薬品名は一字一句間違えないように）の項目を入れ、メールを送信してください。

問い合わせのメールアドレスは、dopingqa1089@gmail.comです。

ぜひ活用してみてください。

●薬剤師会ドーピング防止ホットライン

こちらは各都道府県の薬剤師会によるドーピング防止ホットラインになります。電話番号は、日本ハンドボール協会のウェブサイト内にある「ドーピング防止啓発ページ」↓「薬剤師会ドーピング防止ホットライン」から連絡先を探してください。

2 薬局などで薬を購入する際、大切に持っているべきもの

●薬剤師会のためのドーピング防止ガイドブック2013
毎年変更される禁止物質・禁止方法に対応したガイドブックの中で最も詳細なものです。
国体開催都道府県（本年は東京

都）の薬剤師会が国体に向けて毎年改編しているものです。本年は東京都薬剤師会が発行しています。

このガイドブックの使用しやすさは、禁止物質を含まない薬剤の商品名を、症状ごとに記載されているところから、

しかしながら、これまでも書いてきたように、商品名は非常に類似したものが多く、このガイドブックに記載されている商品名と一字一句違いのない商品を購入する必要があります点にはご注意ください。

例えば「○○○」という名前の商品シリーズがあるとして、このシリーズの中には「○○○○50」「新○○○○」、「○○○○ゴールド」、「○○○○顆粒」、「○○○○A」、「○○○○エース」といったさまざまな商品が展開されているはず。ガイドブックのなかには「○○○○50」は使用可能と書いてある場合は、この「○○○○50」のみを使用してください。それ以外のものは、逆に禁止物質

が必ず入っているものと考えてください。

さらには、購入の際には薬局などにおいて、「この商品はこれと間違いないか」と問い合わせたり、スポーツファーマシストのいる薬局で購入することを強く推奨しているこのガイドブックは、東京都薬剤師会のウェブサイト上の『ストップうっかりドーピング』というリンク先から入手することが可能です。ダウンロードすることが可能であることを、ぜひチームに1冊は入手されることをお勧めします。

●ドーピング防止使用可能薬リスト2013年3月改訂版

こちらは日本体育協会が作成した本年度用の使用可能薬リストです。この連載でも7月号で取り上げました。

前述のガイドブックに比べ非常にコンパクトにまとまっていますので、持ち運びには大変便利です。コンパクトゆえに、掲載されている薬品数がガイドブックに比

べると少なくはなっていますが、代表的な商品については記載されているので、こちらも有効に活用してください。

3 購入したまたは処方された薬剤が使用可能かを調べる方法

●Global DRO

これまで、日本アンチドーピング機構（以下、JADA）内にある「禁止表 mobile site」をご紹介してきましたが、薬が商品名ではなく一般名（つまり成分の名前）でしか検索ができないといった欠点がありました。医療従事者であれば、充分対応は可能ですが、日ごろから薬剤にはなじみのないみなさんにとっては、なにかと難しい検索システムであったかと思えます。

今回ご紹介する「Global DRO」はこの欠点を補って、商品名で検索ができるシステムとなっています。ここからその使用方法について説明していきます。

まず、日本ハンドボール協会ウェブサイト内「ドーピング防止啓

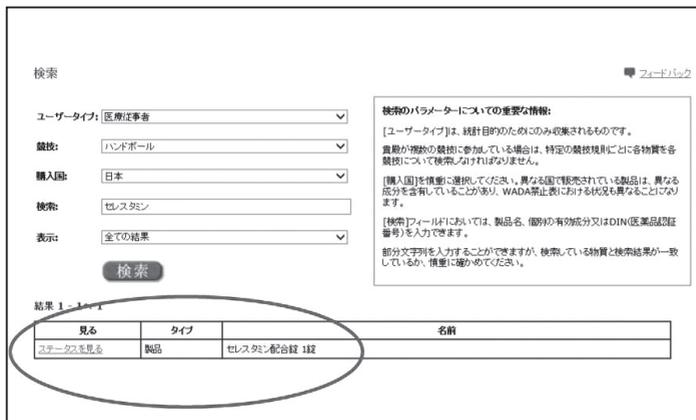


写真3



写真4

ですし、「もしも禁止薬を身体に入れてしまったら」という不安も強いと思います。
ですから、医療機関などにかかる際には、これまでどおり「自分」はアスリートであり、ドーピング

検査を受ける可能性があります」とその可能性を医師、または薬剤師に伝え、「そのため、ドーピング検査でも陽性にならない安全な薬剤を処方してください」ということを必ず伝えるようにしてください

さい。
もし、その医師または薬剤師がアンチドーピングに詳しくない人であった場合は、このサイトのことを伝えて、その上で処方してもらえば、より安心して薬剤を使用

発ページ』を開いていたとき、その中にある『Global DRO』へのリンクをクリックしてください。
さらに『薬の検索』をクリックし、次のページで利用規約に同意してさらに『薬の検索』に向かい

ます。すると写真1のような画面になると思います。
左側にある『ユーザータイプ』、『競技』、『購入国』を選択し、『検索』のところには検索したい薬剤名を入力してください(例で

は『セレストミン』というアレルギー疾患によく使用されるステロイドを含んだ薬剤で検索してみます。『表示』では『全ての結果』を選択し、次へ進みましょう(写真2)。



写真1

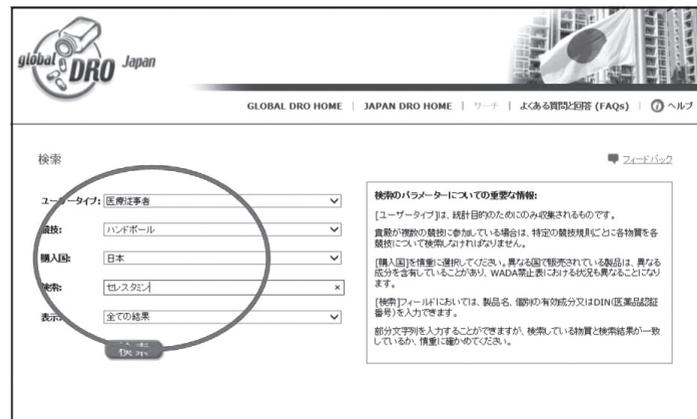


写真2

アンチドーピング ホットライン

電話番号
090-9304-5420

メールアドレス
handball@japan-sports.or.jp

ぜひ、しっかりと準備をして、大会を迎えてください。困ったことがあれば、いつでも日本ハンドボール協会アンチドーピングホットラインをご利用いただければと思います。

できれば、薬剤は飲まない方がよいと思いますが、みなさんがせっかくの全国大会で自分の持っているパフォーマンスを存分に発揮できるように、安全な薬剤を服用することはよいのではないかと考えています。

さて、今回は国体に向けて緊急的に薬剤を使用しなければならなくなった場合の対応策を記載してきました。

できるだけ早く、

次に『ステータスを見る』をクリックしてください(写真3)。すると、写真4のように結果が表示されます。結果としてこの薬剤は競技会検査では禁止物質であるが、競技会外検査では禁止物質にあてはまらないことがわかります。さらに、その下には本製品の成分での表示もされ、実際にはBetamethasone (ベタメタゾン) という成分が競技会検査において禁止物質にあてはまるということがわかります。

『Global DRO』は商品名で検索ができることから、これまでのものに比べ非常に有用なものになったといえます。ただし、残念なことにはすべての商品品に対応できているわけではありません。まだ、検索しても検索できない製剤もあるので、そうした際には、これまでの『禁止表 mobile site』から検索をしていただくこととなります。

また、この検索サイトは使いやすくなったとはいえ、やはり専門的な知識を必要とする薬剤の検索